

## 憧れや目標を持つことの学びへの影響 —大学生における生涯学習とキャリアレジリエンスとの関係—

### Effects of Admiration and Objectives on Learning -Relationship with Lifelong Learning and Career Resilience of Undergraduate Students-

合田 美子<sup>\*1</sup>, 山田 政寛<sup>\*2</sup>

Yoshiko GODA<sup>\*1</sup>, Masanori Yamada<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup>熊本大学教授システム学研究センター

<sup>\*1</sup> Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University

<sup>\*2</sup>九州大学

<sup>\*2</sup> Kyushu University

Email: ygoda@kumamoto-u.ac.jp

**あらまし**：本研究は、憧れや人生の目標を持つことがどのように学びに影響しているかを明らかにするための基礎研究である。大学生 67 名を対象とし、それらが生涯学習やキャリアレジリエンス(CR)とどのように関係するかを明らかにすることを目的としている。生涯学習尺度(Wielkiewicz & Meuwissen, 2014)と CR 尺度(児玉, 2015), やりたいことの方向性, 憧れ・目標に関する 2 つの質問への回答を分析した。憧れや目標を持っていることは、生涯学習および CR の 5 要因のすべてに、やりたいことの方向性は、CR の未来志向以外の要因と正の相関があった。また、重回帰分析の結果、大学生の時点で、やりたいことの方向性, 憧れや目標を持つことは、生涯学習や CR の分散のうち、半分程度を有意に説明していた。

**キーワード**：キャリアレジリエンス, 生涯学習, 大学生

#### 1. はじめに

憧れや夢, 理想, 目標などを持つことは学習の動機に繋がるとされてきた。小さい時の感激や感嘆がその後の人生に影響するという報告もある。ギフト教育においても、憧れや目標はその後の学習にとって重要な要因である。自己調整学習や共調整学習, 社会的共有学習は, 学校教育の成功に必要とされる。一方, 変化に富み多様な社会へ適応するために, 生涯学習<sup>(1)</sup>や, リスク対処, キャリア形成を促す心理的特性であるキャリアレジリエンス(CR)<sup>(2)</sup>が必要である。CR は, 失敗から学ぶなど, 学びと関係がある。大学生の生涯学習と CR 全体は, 有意に関係しているとされる<sup>(3)</sup>。学校教育で成功するだけでなく, 社会に適応し, 生涯を通じ, 主体的に学び続けるために考慮すべき要因を探るため, 憧れや目標を持つことの学びへの影響を調査する。本研究は基礎研究と位置づけ, 大学時点での, 人生の方向性, 憧れと目標が, 生涯学習, CR とどのように関係しているのかを明らかにすることを目的としている。

#### 2. 研究方法

##### 2.1 調査方法と調査対象者

2019 年 1 月に Moodle 上のアンケート機能を使い質問紙調査を実施した。データ収集にあたり, 研究の目的とデータの用途, 参加の任意性を説明した。対象者は, 国立大学工学部 93 人(男性 74 人, 女性 19 人)であったが, 欠損値のない 67 人(男性 51 人, 女性 16 人)のデータを分析した。

##### 2.2 質問紙

質問紙は, 2 尺度合わせて計 50 項目と, 方向性, 憧

れ・目標に合う質問 2 項目の合計 52 項目と影響を受けた事柄についての自由記述を含んだ。生涯学習に関しては, Wielkiewicz Lifelong Scale (LLS)<sup>(4)</sup>を採用した。LLS は, 5 段階リッカート尺度で 16 項目から構成される。CR 測定には, 4 段階リッカート形式の 34 項目から構成される児玉(2015)の尺度を使用した<sup>(5)</sup>。問題適応力, ソーシャルスキル, 新奇・多様性, 未来志向, 援助志向の 5 要因が含まれる。著者らが用意した 2 項目は, 「Q1 幼いころからやりたいことの方向性にブレはない」「Q2 こんな人になりたい, こんなことをしたい, こんな生活をしたい, という憧れや目標がある」であり, 4 件法で回答してもらった。自由記述では, 「これまでの人生で, 影響を強く受けたもの, こと, ひとについて, 記述してください。いつごろ, それは起こり(出会い), その時に感じたことを書いてください。また, そのことを今, どのように感じているか書いてください。もし, 影響を受けたもの, こと, ひとがない場合は, 大切にしている言葉または好きな言葉について, 説明してください。」と指示した。

#### 3. 結果

尺度の信頼性は, 生涯学習は  $\alpha=.95$  と高く, CR では, 未来志向性( $\alpha=.55$ )以外は,  $.75\sim.93$  と高めであった。

やりたいことの方向性と憧れ・目標への回答は, 表 1 の通りである。やりたいことの方向性を持ち続けている学生は約半数いた(選択肢 3 と 4 の合計 53.73%)。また, 憧れや目標を持っている学生は 61.20%であった。

方向性と憧れ・目標と、LLS 全体と CR の 5 要因の相関については表 2 の通りである。憧れや目標を持っていることは、生涯学習および CS の 5 要因のすべてに、やりたいことの方角性は、CS の未来志向以外の要因と正の相関があった。LLS 全体、CR 各要因を従属変数、質問 2 項目を独立変数とし重回帰分析を行った。この 2 項目で、LLS 全体、CR の各要因を有意に説明しているという結果になった(LLS:  $R^2 = .40$ , CR1:  $R^2 = .55$ , CR2:  $R^2 = .68$ , CR3:  $R^2 = .58$ , CR4:  $R^2 = .65$ , CR5:  $R^2 = .48$ )。

自由記述を分析すると、未記入または特になしという回答の学生が 17 名いた。その他の 50 名は、影響のあった事項または好きな言葉などを、自己の経験を踏まえて具体的に記述していた。例えば、「私は父が技術者ということもあり、いつも近くで機械などをいじっている父の姿を見てきた。そのため、私も機械などをいじるのに興味が出てきて工学部の進学を決めたきっかけの一つになっている。これから、新しい時代になってくるにつれ機械などがさらに発達してくると思われるため、街づくりなどに役に立つような研究などをしていきたいと考えている。」

#### 4. 考察とまとめ

やりたいことの方角性、憧れや目標を持つことと、生涯学習と CR には、正の相関が存在する結果となった。また、方向性と憧れ・目標をしっかりと持っていることで、生涯学習と CR が有意に高くなる可能性が示唆された。大学生の時点でのやりたいことの方角性、憧れ・目標をもつことは、社会に適応するための継続的な学びに対し肯定的な影響がある可能性が示された。今後は、学びの他の側面も考慮し、大学生だけでなく、幅広い年代の対象者において調査を行い、生涯にわたる学習に影響する要因を更に明らかにしていきたい。本研究の意義として、年代に合わせた学び、成長に合わせたフィードバック、支援をするための手法をデザインするための基礎情報を提供することが挙げられる。

表 1 方向性、憧れ・目的の質問の回答者数と割合

	選択肢	n	%
Q1 幼いころからやりたいことの方角性にブレはない	1 全くあてはまらない	4	5.97
	2 あてはまらない	27	40.30
	3 あてはまる	32	47.76
	4 非常によくあてはまる	4	5.97
Q2 こんな人になりたい、こんなことをしたい、こんな生活をしたい、という憧れや目標がある	1 全くあてはまらない	2	2.99
	2 あてはまらない	24	35.82
	3 あてはまる	35	52.24
	4 非常によくあてはまる	6	8.96

注：N = 67.

#### 参考文献

- (1) 中央教育審議会: “初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申). 第 3 章高等教育の役割”(2009) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/old\\_chukyo/old\\_chukyo\\_index/toushin/attach/1309749.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_chukyo_index/toushin/attach/1309749.htm) (アクセス:2019年6月17日)
- (2) 児玉真樹子: “大学生用キャリアレジリエンス測定尺度の開発,” 学習開発学研究, Vol.10, pp.15-23. (2017)
- (3) 合田美子, 山田政寛, 新目真紀, 半田純子, 長沼将一, 上田勇仁.: “大学生における生涯学習とキャリアレジリエンスの関係”, 第 44 回教育システム情報学会全国大会, pp.53-54. (2019)
- (4) 児玉真樹子: “キャリアレジリエンスの構成概念の検討と測定尺度の開発”, 心理学研究 86, pp.150-159 (2015)
- (5) Wielkiewicz, R. M. and Meuwissen, A. S. “A Lifelong Learning Scale for Research and Evaluation of Teaching and Curricular Effectiveness,” Teaching of Psychology, Vol. 41, No.3, pp.220-227 (2014)

#### 謝辞

本研究は科学研究費助成事業研究課題番号(17K18659, 20H01727)の助成を受けたものです。

表 2 方向性と憧れ・目標と、LLS 全体と CR の 5 要因の相関

		Q1 やりたいことの方角性	Q2 憧れや目標	生涯学習	CR1 チャレンジ	CR2 ソーシャルスキル	CR3 新奇性	CR4 未来志向	CR6 援助志向
Q1 幼いころからやりたいことの方角性にブレはない	Pearson <i>r</i>	1.00	.60**	0.21	.50**	.61**	.48**	0.19	.34**
	<i>p</i>		0.00	0.09	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00
Q2 こんな人になりたい、こんなことをしたい、こんな生活をしたい、という憧れや目標がある	Pearson <i>r</i>	.60**	1.00	.52**	.64**	.72**	.68**	.69**	.56**
	<i>p</i>	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：\* < .05, \*\* < .01, N = 67.